

企画展

Flora Japonica

—日本人画家が描いた日本の植物—
フローラ ヤポニカ



©Kew collection

2017
9/12 火
〜
12/3 日

国立科学博物館
(東京・上野公園)
日本館1階企画展示室

主催：国立科学博物館、英国キュー王立植物園
後援：ブリティッシュ・カウンシル、朝日新聞社
協賛：公益財団法人東芝国際交流財団

開館時間／9：00～17：00

※9月の金・土曜日は21：00まで

※10・11・12月の金・土曜日は20：00まで

※入館は各閉館時刻の30分前まで

休館日／毎週月曜日

※月曜日が祝休日の場合は翌火曜日

※ただし、9月25日(月)は開館

入館料／一般・大学生620円(団体310円)
高校生以下および65歳以上無料

Flora Japonica

日本列島には約6700種の陸上植物が自生しています。そのうち約1800種が、地球上で日本だけに生育している日本固有の植物です。一方わたしたちの祖先は、野生植物や古く海外から持ち込んだ植物をもとに、食卓や庭を彩るさまざまな栽培植物を育て上げました。こうした日本の豊かな植物多様性を日本人画家が描いた植物画作品展が、英国キュー王立植物園で2016年9月から2017年3月まで開催されました。本展ではこれらの作品から選んで展示します。また、英国で創刊され、世界の植物画家に大きな影響を与えた『カーティスのボタニカルマガジン』に掲載されたイラストレーションの中から幾つかの原画も展示します。これらの原画は、キュー王立植物園以外では世界で初めての展示となります。

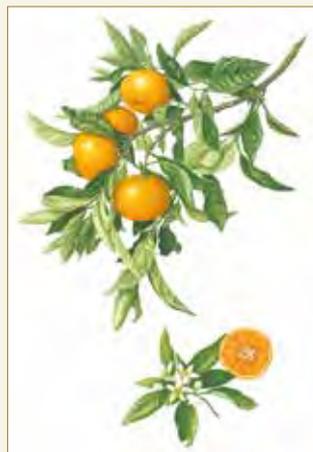
日本人画家が描いた日本の植物

四季を彩るなじみ深い植物や栽培植物の数々、キリ、イロハモミジ、ヤブツバキ、ウンシュウミカンなどとともに、ハマギク、ホオノキ、シラネアオイ、コウヤマキといった日本のユニークな生物多様性を象徴する固有種、また、ヤマシャクヤク、ホソバシャクナゲ、サンショウバラ、エゾウスユキソウなど絶滅のおそれのある種の作品などを展示します。日本の植物多様性の豊かさとしさを、日本人画家による洗練された表現でお楽しみください。

また、キュー王立植物園の公認画家、山中麻須美氏の描いた「奇跡の一本松」を展示します。東日本大震災の際に奇跡的に難を逃れた、陸前高田市の海岸のアイグロマツを描いたものです。



●キリ ©石川美枝子



●ウンシュウミカン ©宮澤香代子



●ホオノキ ©小西美恵子

『カーティスのボタニカルマガジン』イラストレーション原画

『カーティスのボタニカルマガジン』は1787年に創刊され、230年を経た今日でも刊行されている植物学の専門誌です。今回は日本に自生あるいは栽培される植物を紹介したイラストレーション原画を、19世紀のナンテン(1808年)、ヤエヤマブキ(1810年)、トベラ(1811年)、ジンチョウゲ(1813年)、アサガオ(1868年)から、現代のムベ(2012年)、ヒロハカツラ(2013年)、イチョウ(2013年)までを展示します。



●アサガオ(1868年) ©Kew collection

特別講演「キューガーデンと植物画」

11月3日(金・祝) 13:30~15:00

講師 クリスタベル・キング
(英国キュー王立植物園・首席画家)



山中麻須美
(英国キュー王立植物園・公認画家)



会場 日本館2階講堂

定員 100名

(申込み受付開始8月17日(木)~締切10月18日(水) 必着)

※申込み方法は、台東区ホームページ内、上野の山文化ゾーンフェスティバル「講演会シリーズ」のページをご確認ください。

[ここをクリック](#)

※【お問合せ】上野の山文化ゾーン連絡協議会事務局
TEL: 03-5246-1153 (平日8:30~17:00)

交通ガイド

- JR
「上野駅」公園口から徒歩5分
 - 東京メトロ銀座線・日比谷線
「上野駅」から徒歩10分
 - 京成電鉄
「京成上野駅」から徒歩10分
- ※駐車場はありませんので、お車での来館はご遠慮ください。



〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20
TEL: 03-5777-8600 (ハローダイヤル)
FAX: 03-5814-9898
<http://www.kahaku.go.jp/>

【関連展覧会情報】

- J Pタワー学術文化総合ミュージアム「インターメディアテク」
特別展示 インターメディアテク博物誌シリーズ〈1〉
『植物画の黄金時代－英国キュー王立植物園の精華から』

[ここをクリック](#)